

第8回情報ナビゲーター交流会 テーマは『図書館を魅せる』 開催報告

日 時：平成 31 年 5 月 25 日（土）13:00 - 20:30（受付開始 12:30～）
場 所：旅の図書館（東京都港区南青山二丁目 7 番 29 号 日本交通公社ビル）
情報交換会：銀座ライオン青山一丁目店（新青山ビルディング西館 B1F）

主 催：ビジネス支援図書館推進協議会、一般財団法人機械振興協会経済研究所
後 援：専門図書館協議会
開催協力：旅の図書館／公益財団法人日本交通公社

参加者数：総参加者数 110 名（交流会 102 名、情報交換会 83 名）
会 費：無料（ただし、夜の情報交換会参加者は参加費 4,500 円）

日程と概要

■『旅の図書館』見学会（12:00～12:45） 参加者は約 30 名





■受付開始 (12 : 30～)



■開会行事（13:00 - 13:10）

主催者挨拶：竹内 利明（ビジネス支援図書館推進協議会会長、電気通信大学客員教授）



来賓挨拶：鈴木 良雄（専門図書館協議会事務局長）

※鈴木様はご自身のご都合のため欠席されましたが、メッセージを送っていただきました。専門図書館協議会のつながりで、当日司会を担当していたB I Cライブラリの結城智里さんに代読していただきました。

■講演1（13:10 - 14:15）

「Next Library 図書館の魅力を最大化するブランド戦略」

講師：南山 宏之さん（株式会社アクサム 代表取締役ディレクター）



■講演 2 (14:15-15:20)

「ホテルのコンシェルジュに学ぶ接客術」

講師：加納 尚樹さん(キハラ株式会社クオリティ インプループメント マネージャー)



■休憩

■ミニプレゼン大会 (15:30 - 17:30、各プレゼン 10分)

1 『ビジネス支援図書館推進協議会とは』

ビジネス支援図書館推進協議会理事・愛知大学図書館 中村 直美さん



- 2 『ALA年次大会で日本の図書館事例発表について』
ビジネス支援図書館推進協議会副理事長 豊田 恭子さん



- 3 『公共図書館のビジネス支援サービスを概観する！』
新宿区立中央図書館 滑川貴之さん

- 4 『海と地球の専門図書館、JAMSTEC 図書館をご利用ください！』
国立研究開発法人海洋研究開発機構研究推進部研究推進第1課 長尾 典子さん



5 『三康図書館の強みを活かす～古書の魅力とビジネス支援』

公益財団法人三康文化研究所附属三康図書館図書部 司書 新屋 朝貴さん



6 『防災専門図書館の使い方』

公益社団法人全国市有物件災害共済会防災専門図書館 主任 矢野 陽子さん



7 『公共図書館や地域社会、企業との連携』

公益財団法人大倉精神文化研究所 所長兼図書館運営部長 平井 誠二さん



8 『観光の研究・情報プラットフォームを目指す旅の図書館の取り組み』

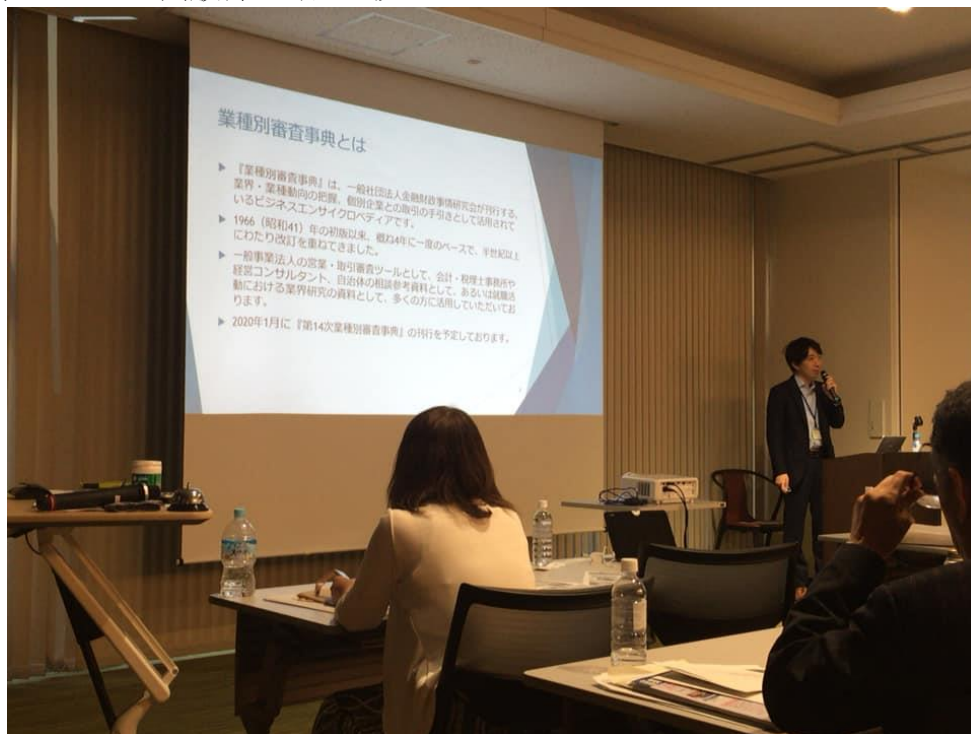
公益財団法人日本交通公社/旅の図書館 副館長 大隅一志さん



9 『市場情報評価ナビ「MieNa」の概要と活用』
株式会社日本統計センター 主任研究員 青山武夫さん



10 『ビジネス支援に直結する、業種別審査事典が新しくなります！』
株式会社きんざい出版部 堀内 駿さん



11 『野球で自由研究！のすゝめ』

公益財団法人野球殿堂博物館 事業部司書 茅根 拓さん



12 『独自に雑誌記事から索引を採録！大宅式分類法と Web OYA-bunko』

公益財団法人大宅壮一文庫事務局事業課 鴨志田 浩さん



※ 当日には、ミニプレゼン2でも紹介されたALAで日本の図書館の活動を紹介するために実施されているクラウドファンディングを応援するための募金も行われました
当日の募金総額は、24,479円でした。

■『情報交換会』は、銀座ライオン青山一丁目店にて（18：30～20：30）



<所感>

- ・例年、他の集会が開催される時期に合わせて6月中旬に開催している本会だが、今年度は会員をALAに派遣する事業と重なるということで、5月末に前倒しで開催。他の行事と兼ねない単独目的での上京の方が多かったのでは思われる中で、北海道から熊本まで全国から110名もの参加者があったことは、本会開催の意味が定着しつつあるものと考えたい。
- ・昨年、プレゼンターとして参加していただいた旅の図書館の大隅副館長の熱意、理解により今年は旅の図書館を会場に開催できたこと、例年にも増して多くの専門図書館関係者に登壇いただいたこと、各機関のプレゼンの内容が互いの連携を強く意識したものと変化してきていることは、今後開催継続に向けて明るい展望といえる。
- ・新たな専門図書館関係者、新たな公共図書館関係者の参加を促していくことが、この会を今後存続していくか否かの判断材料となる。新規参加館の発掘と既参加者からの同業他者への働きかけを期待し、来年度の準備を始めたい。
- ・来年度については、例年通り6月中旬を目途に開催を計画したいと予定している。